**第10回淡路市子ども・子育て会議　会議録**

（※青字は委員の意見まとめ部分）

開催日：平成28年3月16日（火）15:30～17:15

開催場所：淡路市防災センター２階　多目的ホール

（出席委員：15名、欠席委員：5名）

１　開会あいさつ　伊木会長

　　⇒保護者の意見を聞きそれについて討論を行う

２　淡路市岩屋認定こども園について

　　（１）民営化（公私連携による運営について）

　　なぜ、公私連携の体制をとるか

　　　⇒多様化するニーズを民営のノウハウにより、子育て支援を牽引する期待がある。

公私連携による運用を行う場合、建物は公立でも私立として位置づけされる。

　　＜委員の意見＞

　●民営化されると質の高い保育になるイメージがあるので、公私連携を行うことで、良くなるように思える。高校入試の学区が神戸にも広がったことで、教育への関心は高まってくると思う。大阪市のように幼児教育に力を入れるなどして欲しい

　●同じ市内で、「民間サービスを利用できる人」「利用できない人」に分かれると、地域で保育に差が出るのが心配である。親であれば、良いものを子どもに受けさせたい。全域に質の高い教育保育を受けさせる体制を検討して欲しい。

　●保育所間で連絡をとって、公立の保育所（園）に民間のノウハウを取り入れられるよう、情報共有をして欲しい。

＜事務局＞

　　いいものは公立の保育所（園）でも取り入れていきたい。公立・私立と園長会を行っているのでそのような場所で情報交換を行いたい。

　＜関係者の意見＞

●公立でも英語であそぼう等の事業を実施している保育所もある。

●公と私の大きな違いは、ニーズに応じてフレキシブルに動けるか否かの部分である。

また、私立は、園の特色を出しやすいが、公では特色を出しにくい点があると思われる。

●公立の岩屋認定こども園では、石屋小学校附属幼稚園・岩屋保育所で培ってきたとことを生かせるようにしたい。

＜事務局＞

　　質の向上等、保育士の免許更新もあるので、公私の職員の交流をしながら、教育・保育の質を向上させる取り組みを考えたい。

●岩屋が特殊なのか、市内の他の保育所（園）も民営化していく予定なのか。いきなり民営化で運営に問題は出ないのか。

＜事務局＞

　　他も検討する可能性はある。すべてを民営化するかどうかは、岩屋認定こども園の実績を見てから。現段階では断定できない。

　●他の地域の保育所が公私連携の認定こども園になった場合、通園バスは検討できるのか。

＜事務局＞

　　保護者の希望が多いようであれば運営する法人と協議したい。

　●岩屋の運営者が決まったら、そこが他の保育所を運営するようになるのか。

＜事務局＞

　　岩屋の運営者が全ての認定こども園を運営するわけではない。個々に募集をすることになる。

　●以前の子育て会議で民間を参入させないと言っていたのではないか。

　＜事務局＞

　　それは、新たな参入、新規参入と言う意味である。

●運営する法人はどうして決めるのか。

　　＜事務局＞

　　プロポーサルを行い選定していく。委員には、公の委員3名、学識経験者4名、保護者代表1名で行う。保護者代表者は、民営化説明会にも参加した方を選定するので保護者の意見も反映できる。

　　（２）夢舞台への移転について

　　子ども、保育士がそのまま新施設へ移動し、できるだけ人の環境を変えない方式で、負担を少なくしたい。

　　　⇒公私連携となる際、現在、臨時・パートで勤務している保育士を民営後も引き続き雇用してもらえるよう、人的に影響のない体制を考えて、運営法人にお願いをしたい。

３．「夢舞台認定こども園（仮称）」の新設について

　　　平成29年度から現在の淡路市立岩屋保育所で民営事業を行い、平成30年度より

　　夢舞台認定こども園（仮称）で事業開始予定。

　　　⇒平成30年度の開始を目指すためには、平成28年上半期から工事に取り掛かる必

要がある。

運営主体となれるのは、学校法人または社会福祉法人に限定されている。

＜保護者の意見＞

●夢舞台に移動すると今までは祖父母が送迎をしてくれていたが、それが不可能になることが考えられる、スクールバスの運行は考えているのか。

＜事務局＞

認定こども園になると、送迎バスを運行させることは可能になるが、保護者の費用負担となるため保護者の意見を聴いて検討する。

現在、利用者は小数と思われるので、先ず、らくらく号の活用を検討する。

●移住してきた人から見たら、すごく良い計画であると思われる。島外に働きに行きやすいし、保育所に預けることに抵抗がある保護者にとって、認定こども園は受け入れられやすい。なぜならば、教育がうけられないから。自身も淡路市に転入したが、幼稚園でなく保育所に入所させることに抵抗があった。実際、保育所に入所してみて、良いこともあったが・・・。都市部から移住する人にとって、淡路市に幼稚園がないことは移住への抵抗要因になると思う。

●夢舞台への施設建設は、今の流れにマッチしている。この取り組みを充実していくことで、まだ淡路市に人が増加していくと期待を持てる。その反面、昔からここに住んでいる人から見ると、そうでない部分もあるかもしれない。

●格差が心配である。格差とは、いいサービスが入ってくる、つまり、民間のサービスが入ってくるのに、自分たちの子どもが、それを利用できないという意味である。他地域から夢舞台認定こども園に入園するのは可能なのか？良いものを利用できる地域とそうでない地域の子どもの能力に差ができてしまう格差が心配という意味である。

＜事務局＞

夢舞台への入園は、定員を超えると利用調整等をしなければいけないが、定員に余裕があれば、どこの地域からでも利用できる。公私間に差ができないよう、情報交換・研修などで向上に努めたい。

　　　●定員180人は多すぎではないか

＜事務局＞

施設の最大定員が180人と考えている。

４.平成28年度認定子どもの内訳及び入所の予定について

　　　1号認定（教育時間）の児童は予定していたよりも少ない数となっているが、2号認定の児童は多いので、認定こども園が開始することで1号認定児童は増える可能性がある。

５.その他

　　病児・病児後保育について

　　⇒入口を別にしなくてはならないなど建物自体を対応できるものにしなくてはならない。

　　それに伴い費用も発生してくると思われる。

　●ニーズと費用がかみ合わない為、赤字運営になることが予想される。

逆にインフルエンザが流行した時は、すべての児童を受け入れることも出来ない。

小児科との連携が必要である。

＜事務局＞

3市で協議も行っているが、費用・距離的な面でも難しい。

病児・病児後保育を行う場合のリスクと費用面が大きな課題となっている。

閉会あいさつ

　　⇒三浦副会長

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以　　　　上